

みんなのみなと

Vol.25

救急外来・拡張リニューアル

24時間365日、断らない救急のために。

ご自由
にお持ちください

もれも守る。いつもへつなぐ。



日本赤十字社 横浜市立みなと赤十字病院
Japanese Red Cross Society

SPECIAL DIALOGUE

救命救急センター

副院長 兼
救命救急センター長

武居 哲洋

TETSUHIRO TAKEI

救急科 部長

中山 祐介

YUSUKE NAKAYAMA

横浜市立みなと赤十字病院は、厚生労働省が実施する救命救急センター充実段階評価で8年連続で最高ランクの「S評価」を取得。24時間体制で「断らない救急」を実践しています。

救急搬入件数の増加に伴う混雑を緩和し、より迅速な処置ができるよう、

2026年3月、救急外来の拡張工事を完了しました。

新しくなった救急外来について、武居救命救急センター長と中山救急科部長にお話を伺いました。

「断らない救急」のために、6年余りかけた拡張工事が完了！

武居 医師

年間1万台以上の救急車を受け入れる当院ですが、これまではスペースの不足が大きな課題でした。コロナ禍による予算や設計の変更など、多くの困難を乗り越え、2026年3月によりやく拡張工事が完了しました。感染症対策も強化した、これからの時代にふさわしい設計です。

築21年を迎えた当病院の大きな節目として、今後も地域の皆さまのために『断らない救急』を継続してまいります。

長期間の工事中、ご不便をおかけした患者さまと関係者の皆さまに、深く感謝いたします。



中山 医師

これまでの救急スペースは診察エリアと待合場所の間に壁があり、全体を見渡すことができませんでした。今回の拡張工事によって視界が大きく広がり、患者さんの細かな変化にいち早く気づいてお声がけできるようになりました。スペースにゆとりができたことで受け入れもスムーズになり、いちばんの課題だった「待ち時間」の短縮にもつながっています。

お待たせする時間を減らし、一人ひとりの患者さんにゆとりを持って向き合えることは、私たちにとっても非常にうれしいことです。

また、リニューアルに伴い設備も一新しました。

リアルタイムで処置を確認できる最新の透視検査システムや、感染症に対応するための陰圧室を増設しています。

さらに災害拠点病院として、万が一の際にも多くの傷病者を同時に受け入れられる設計に工夫しました。

1つの酸素エリアを2名で使える配管や、通信障害に強い衛星インターネット回線も完備しています。

新しくなった救急外来で、これまで以上に安全で安心な医療を提供してまいります。

「自分の家族だったら」という気持ちを大切に

中山 医師

以前はエリアが狭く、大切な時間を過ごすにふさわしい空間を用意できないこともありました。心肺停止の患者さんの周りでご家族が泣き崩れる傍ら、カーテンを1枚隔てて意識の清明な患者さんが日常的な会話をしながら治療を受けている、そのような場面がありました。広がったことで、患者さんやご家族のプライバシーへの配慮ができるようになりました。

ご状態が深刻な患者さんのご家族には、早めに個室へお越しいただき、穏やかな時間を一緒にいただけるよう心がけています。

私がスタッフにいつもお話しているのは「自分の家族だったら」という気持ちです。患者さんに対して、家族にしたいくはないことはしない。家族にしてあげたいことをしてあげる。患者さんに親身になれば、救急の現場で大切にすべきことが自然と見えてきます。



当院は「断らない救急」の考え方を大切にしています。

道で倒れている方を見かけたら声をかけると思います。

目の前で苦しんでいる方に対して、あれこれ条件を考えすぎずにまず動こうと、スタッフには伝えています。

病気で苦しんでいる方がいれば、お力になるのが私たちの役割です。

救急車を呼んで申し訳ないとおっしゃる患者さんもしらっしゃいます。

一般の方が症状の軽重を判断するのは難しいことです。

不安があれば受診していただいて構いません。

他に緊急性の高い方がいれば、お待たせしてしまう場合もありますが、その点をご理解いただければ幸いです。

横浜のインフラとして「もしもを守る。いつもへつなぐ。」

中山 医師

今回の工事で、施設面だけでなく診療環境も大きく変わりました。整った環境で地域の皆さんにしっかりお応えできるよう、取り組んでいきたいと思っています。

地域の医療機関から連携室にご依頼があった際は、救急外来での診察を経て総合診療科へつなぐ場合もあります。

「もしも」の際は、ぜひ私たちにお声がけください。



武居 医師

横浜市立みなと赤十字病院は、

「もしもを守る。いつもへつなぐ。」というブランドスローガンを掲げています。

コロナ禍を経て、私たちは改めて「病院が地域に果たす役割」を考え直すようになりました。

病院は水や電気といったライフラインに近い、地域の暮らしを支えるインフラの一つです。

当院は公的病院としての役割を担い、行政からのご依頼にもお応えしています。

今回の工事にあたっては、横浜市にもさまざまなご協力をいただきました。

横浜市中区を中心とした地域の皆さんに何かあれば、私たちはしっかり動きます。

地域の皆さんのお役に立ち、医療機関の先生方からも頼りにしていただける存在でいたいと思っています。



2027年 日本赤十字社は皆様とともに創立150周年を迎えます。

日本赤十字社は、2027年に創立150周年を迎えます。これまでの歩みを支えてくださった皆さまへの感謝を込めて、記念の特設サイトを開設いたしました。

サイト内では、150年の歴史を振り返るコンテンツや将来のビジョン、赤十字を身近に感じていただけるコンテンツなどを順次公開していきます。

これからの150年も、皆さまとともに歩み続けたい。

赤十字の「今」と「未来」を、ぜひサイトでご覧ください。



特設サイトはこちらから

https://www.jrc.or.jp/lp/150th_anniversary/



海の見える図書室で、ほんとひと息つきませんか？

当院6階の患者図書室は、窓から海を眺めながらゆったりとした時間を過ごせる空間です。

図書室には小説だけでなく、漫画や雑誌、写真集、絵本など、幅広い年代の方に楽しんでもいただける蔵書を取り揃えています。「本はあまり読まない」という方も、待ち時間やお見舞いの合間に気軽にお立ち寄りいただけます。

また、定期的に新しい本や雑誌を取り入れており、訪れるたびに新たな一冊との出会いを楽しんでもいただけます。

本を手取るだけでなく、海を眺めながらほんとひと息つける場所として、ぜひご利用ください。入院中やお見舞いで訪れた際に、少しでも安らぎを感じていただける空間でありたいと願っています。



患者図書室のご案内

場所：6階

利用時間：平日 9:00～17:00

入院中の患者さん、お見舞いのご家族の皆さまにご利用いただけます。

お問い合わせ

☎ 045-628-6100 (代表)

📠 045-628-6101 (FAX)



<https://www.yokohama.jrc.or.jp/inquiry/>

発行：2026年8月